

医師を目指すあなたを応援!

● 高校生・受験生のみなさんへ
「未来の医師を応援」
● 合格 HISTORY

特集 診療所実習で 医師像を 深めよう!

● なにわの医療道場

● いがくせいだより
● けんしゅうエッセー

クリニック

私たちは
おおさか民医連
Osaka Min-iren



大阪民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です。2018年、連合会設立65周年を迎えました。現在、4つの病院、48の診療所、7つの歯科診療所、20の訪問看護ステーション、36の保険薬局、2つの老健施設、薬剤・診療材料センター、1つの看護専門学校、検査センター、在宅看護支援センターそして社会医学研究所が、大阪民医連に加盟しています(2020年12月現在)。病院・診療所での実習を、随時受け入れています。

※医学生センターは、阿倍野医学生センター(市大近辺)、枚方医学生センター(関西医科大学近辺)、狭山医学生センター(近大近辺)の3つです。

奨学金 制度

大阪民医連では、いつでも、どこでも、だれもが安心してよい医療を提供できる医療機関を目指しています。私たちの医療活動に共感し、ともに働く意思のある方を対象に奨学金を貸与しています。

● 対象学年と奨学金(月額)

Aコース	1~2年生 50,000円	3~4年生 60,000円	5~6年生 70,000円
Bコース	全学年 100,000円		

他の奨学金と併用できます。詳しくはお問い合わせください

大阪民医連の病院紹介(詳細は各病院のHPをご覧ください)



臨床研修
指定病院

耳原総合病院 (病床数 386床)

- 大阪府堺市堺区協和町4丁465 TEL.072-241-0501代
- 南海高野線堺駅よりバス10分



臨床研修
指定病院

西淀病院 (病床数 218床)

- 大阪市西淀川区野里3-5-22 TEL.06-6472-1141
- JR東西線御幣島駅徒歩5分



東大阪生協病院 (病床数 99床)

- 東大阪市長瀬町1-7-7 TEL.06-6727-3131
- 近鉄大阪線長瀬駅徒歩3分



コープおおさか病院 (病床数 166床)

- 大阪市鶴見区鶴見3丁目6-22 TEL.06-6914-1100
- 地下鉄長堀鶴見緑地線今福鶴見駅徒歩4分



facebook



twitter



医学生・研修医.com

はじめまして民医連です

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現を目指す組織です。戦後、医療に恵まれない人々と医療従事者が手をたずさえて各地で民主診療所が作られました。そして、1953年、「働くひとびとの医療機関」として全日本民主医療機関連合会を立ち上げました。

それから60年余り、なによりも地域の人たちの思いを大切に、地域に求められる医療を行ってきました。

最も困難な人たちの立場に立って、寄り添う。

設立以来一貫して、無差別・平等の理念を掲げる私たちの病院は、差額ベッド代を(※1)頂いていません。また、無料低額診療にも(※2)取り組んでいます。これは、「お金のあるなしで医療に差別があつてはならない」という私たちの考えによるものです。

※1…医療保険外の実費負担費用。病院によって金額は異なる ※2…低所得者などに無料または低額な料金で行う診療

民医連綱領

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です。戦後の荒廃のなか、無産者診療所の歴史を受けつぎ、医療従事者と労働者・農民・地域の人びとが、各地で「民主診療所」をつくりました。そして1953年、「働くひとびとの医療機関」として全日本民主医療機関連合会を結成しました。

私たちは、いのちの平等を掲げ、地域住民の切実な要求に応える医療を実践し、介護と福祉の事業へ活動を広げてきました。患者の立場に立った親切でよい医療をすすめ、生活と労働から疾病をとらえ、いのちや健康にかかわるその時代の社会問題にとりくんできました。また、共同組織と共に生活向上と社会保障の拡充、平和と民主主義の実現のために運動してきました。

私たちは、営利を目的とせず、事業所の集団所有を確立し、民主的運営をめざして活動しています。

日本国憲法は、国民主権と平和的生存権を謳い、基本的人権を人類の多年にわたる自由獲得の成果であり永久に侵すことのできない普遍的権利と定めています。

私たちは、この憲法の理念を高く掲げ、これまでの歩みをさらに発展させ、すべての人が等しく尊重される社会をめざします。

- 一、人権を尊重し、共同のいとなみとしての医療と介護・福祉をすすめ、人びとのいのちと健康を守ります
- 一、地域・職域の人びとと共に、医療機関、福祉施設などとの連携を強め、安心して住み続けられるまちづくりをすすめます
- 一、学問の自由を尊重し、学術・文化の発展に努め、地域と共に歩む人間性豊かな専門職を育成します
- 一、科学的で民主的な管理と運営を貫き、事業所を守り、医療、介護・福祉従事者の生活の向上と権利の確立をめざします
- 一、国と企業の責任を明確にし、権利としての社会保障の実現のためにたたかいます
- 一、人類の生命と健康を破壊する一切の戦争政策に反対し、核兵器をなくし、平和と環境を守ります

私たちは、この目標を実現するために、多くの個人・団体と手を結び、国際交流をはかり、共同組織と力をあわせて活動します。

2010年2月27日
全日本民主医療機関連合会

特集 診療所実習で 医師像を 深めよう！

大阪民医連には4つの病院のほかに、48か所の診療所があります。今回は大阪民医連の様々な診療所を医学生が実習で体験したレポートをお送りします。

病院ではなく、地域に根差した診療所だからこそ求められる医療の役割もあります。

また診療所の医師が日頃どのような思いで医療活動を行い、地域の患者さんと関わっているのかその一端をお届けできればと思います。

医学生や受験生、高校生みなさんにも今後ぜひ体験して、将来どんな地域や分野で活躍し、どんな医師になりたいのか自分なりの医師像を考えてもらえたらと思います。

民医連の組織現勢

全日本民医連加盟事業所数 (2019.1現在)	
病院	142
有床診療所	14
無床診療所	480
歯科	82
訪問看護ステーション	247
保険薬局	352
薬剤・診療材料センター	34
看護・介護学校	8
検査センター	2
老人保健施設	52
在宅介護支援センター	24
特別養護老人ホーム	37
鍼灸所	3
研究所	2
ヘルパーステーション	55
グループホーム	23
在宅介護福祉関係施設	213
ケアハウス	11
その他	13
合計	1,794

主な医療団体との比較

職員数		1日平均の入院患者数	
民医連	82,330 (2017.10.1)	民医連	23,068 (2017年度)
日赤	58,349 (2017.4.14)	日赤	29,000 (2017年度)
厚生連	54,418 (2018.3)	厚生連	26,673 (2016年度)
済生会	60,000 (2018.3)	済生会	18,273 (2016年度)
1日平均の外来患者数		病院数	
民医連	68,696 (2017年度)	民医連	142 (2017.12)
日赤	67,000 (2017年度)	日赤	92 (2017.3)
厚生連	47,287 (2016年度)	厚生連	107 (2018.3)
済生会	27,780 (2016年度)	済生会	80 (2018.3)
訪問看護ステーション数		病床総数	
民医連	247 (2019.1)	民医連	24,109 (2017年度)
日赤	46 (2016.1)	日赤	36,317 (2018.3)
厚生連	100 (2018.3)	厚生連	33,794 (2018.3)
済生会	57 (2018.3)	済生会	22,227 (2018.3)
診療所数		(調査日)	
民医連	494 (歯科除く)		
日赤	5		
厚生連	64 (2018.3)		
済生会	17 (2018.3)		

実習に参加して将来の 医師像を明確に 考えることができた



三重大学医学科4年
飯塚洋史
(千種高校出身)

地域住民の方々のニーズに合っているのだと感じました。往診では、1日の往診件数の多さ、1人の患者さんと話す時間の長さに驚きました。また、患者さんが大井先生に大きな信頼感を持っていることを実感しました。長い期間患者さんに寄り添い、介護で疲れている患者さんの家族をもケアできるような信頼される医師になりたいと強く思いました。

大阪民医連、奨学生の三重大学医学科4年飯塚洋史です。8月に1週間ほど大阪民医連の病院や診療所にて実習に参加致しました。その内、4日間が医療生協かわち野での実習でした。実習先は八尾クリニック、東大阪生協病院、楠根診療所、はなぞの生協診療所などでした。

八尾クリニックでは、大井先生の外来と往診に参加しました。外来には多くの患者さんが来られていて、家から病院までの無料送迎を含めて、八尾クリニックの提供する医療が

八尾クリニック
大井先生と



出の疾患を学ぶことができ、勉強への意欲もより一層湧いてきました。また、患者さんが寝たきりなど患者さんの状態に合わせて診察を行う必要があるため、大学でやる以上に難しかったです。

はなぞの生協診療所にて石井先生と面談をしました。先生から、家庭医は病院に來れない人に医療を提供できることに魅力があり、ずっと患者さんに寄り添い、その人の人生におけるライフイベントにだけ関わることが出来るのが家庭医のキャリアとなると教えていただきました。また、マルチモビリティ*の話を伺いました。現在の高齢者の

※CBT：医学部4年生で受ける試験。Computer Based Testingの略でコンピューターを使い、臨床医学の知識を測る。
マルチモビリティ…多疾患併存状態…同時に2種類以上の疾患が併存し、診療の中心となる疾患が設定し難い状態。特に高齢者の医療に多くみられる。

がありました。そこで、自分は豊川先生の医療相談に立ち会わせていただきました。数名の方がフードバンクを利用するついでに先生に相談に乗って欲しいというしゃべっており、フードバンクを通して医療生協の存在を知ってもらえる良い機会だけでなく、患者さんの身体の不安も払拭できている様子で、このような場に医療相談の窓口を設けることはいいことだと実感しました。

実習に参加する前は将来、どのような環境で医師として働くのか悩んでいました。家庭医と救急医のキャリアを積み上げる医師、診療所所長、医療支援に尽力する医師など魅力的な経験を積まれておられる医師の方々の話をお伺いすることができ、将来の医師像をより明確に考えることが出来ました。実習を終えて、現在の理想的な医師像は家庭医として地域に密着して、患者さんに信頼され、地域住民の求める医療を提供しながら、救急医としてのキャリアも伸ばしていきたいと考えております。

はなぞの診療所
石井先生と



よくある状態で、多くの疾患が併存していることに加えて、ケースバイケースで家庭事情が絡んでくることもあるとのこと。医師は1つの疾患に注目するのではなく、患者さんの全体を広く見る必要があると感じました。

はなぞの生協診療所にて行われたフードバンクに参加しました。フードバンクの参加者は高齢者の方、ファミリーで来られている方、シングルマザーの方など様々でした。ボランティアの方々が朝からテントの設営や物資の運搬しており、やはり規模が大きい分、活気

東大阪生協病院
発熱外来



ベテラン先生との出会い でキャリアモデルを 発見できた

大阪市立大学医学部5年
田畑 治希
(茨木高校出身)



た。外科では、オペのない日だったので、日常業務や当直のお話をお聞きし、外科には必須である糸結びのレクチャーもしてもらいました。総合診療センターでは、その日入院された患者さんの、喀痰に対してのグラム染色を見学しました。小児科では、入院患者カ



糸結びの
レクチャー中

日本における医療施設の数は、なんとコンビニの約3倍なんです。私はこの夏、医療施設の中でも役割が大きく異なる2つである総合病院と診療所を見学してきました。大阪民医連の臨床研修基幹型病院でもお馴染みの耳原総合病院と、自身の実家近くにあり、幼少期に何度か受診したこともある茨木診療所です。

■耳原総合病院にて

まず、耳原総合病院では、外科、総合診療センター、小児科を見学させていただきました

ンファレンスと、病棟回診を見学しました。また、タイミング良く出産に立ち会うこともできました。多くの診療科で多くの先生方が働いておられるため、専門性の高い医療を提議できる施設なのだのと再実感することができました。

■茨木診療所にて

次に茨木診療所では、外来診療と往診を見学させていただきました。外来診療では、発熱外来やワクチンといったイレギュラーな業務をこなしつつ、かかりつけ患者さんの診療を行う様子を見学することができました。往診では、外来に来ることが困難な患者さんのお宅に向いて診療する様子を見学することができました。高齢の方から子どもまで、多様な患者さんそれぞれのニーズに合わせた診療を行っているところを見て、地域に無くてはならない診療所なのだとは確信しました。

■自分のキャリアモデルが見つかった

2つの施設を見学してみて、初期研修医の先生方とお話することで、自分が初期研修医として働くことがイメージしやすくなりました。また、大学の講義や実習では不足しがちな、横断的な学習をすることができて、勉強をするモチベーションが大きく上昇しました。そして、大ベテランの先生と関わることでできたことで、自分の思ってもみなかったキャリアモデルが見つかり、自分の将来像が定まっていく大きなきっかけになりました。まだ実習に参加したことがない方も、一歩踏み出して一度参加してみたいかがでしょうか。きっと何かしらの学びがあると思います。

患者さんのニーズに すべて答える部分が 「さすがプロだ」

徳島大学医学部1年
奥川 佳依
(明星学院高校出身)



8月24日に八尾クリニックにて実習を行いました。今回が大学入学後初の1日実習でした。スケジュールとしては、午前中に八尾クリニックの大井先生の外来見学、地域のたまり場にいらっしゃる方々との交流、そしてクリニック見学を行い、午後は大井先生の往診に同行して、往診見学を行いました。朝の8時30分にクリニックに到着し、最後クリニックを出たのが夜の21時だったので、スケジュールにはかなりハードな1日でしたが、その分学びや気づきも多く、濃密な1日

でした。その学びや気づきをここで共有したいと思います。

まず、地域のクリニックということで、大井先生は非常に地域の方に愛されています。たまり場にお邪魔した際、「優しさは薬である」という言葉を大井先生がおっしゃっているということを知りました。地域で愛さ



八尾クリニック
大井先生と

れている理由がまさにその言葉に凝縮されているような気がして、実習から3カ月以上たった今でも鮮明に覚えています。この言葉を聞いて、自分がなりたい医師像に要素をまた1つ付け加えることができました。

クリニックを回った際には、医師や看護師

以外の方の存在も忘れてはならないことに気が付きました。病院は事務の方、清掃の方、食堂の方など多くの人に支えられています。今回の実習では送迎バスの運転手の方とお話する機会がありました。患者さんと最初に出会うのも、最後に家に見送るのも運転手さんなので、運転手さんが患者さんの変化や異変に気付くことが多いそうです。そのような気づきは診察に役立つので、バスの運転手さんもある意味「医療従事者」の1人だということに気が付きました。

往診見学はすべての行動に意味があり、そのすべてが学びでした。そしてすべての行動が患者さんを配慮した行動でした。スケジュールも患者さんの普段の生活リズムを崩さないよう組んだり、患者さんの爪を切る必要があったら爪を切ったり。一見医療と関係ないことのように見えても、患者さんのニーズにすべて答える部分が「さすがプロだ」と感じましたし、これに僕も近づけるように頑張ろうと思いました。

最後に、先ほども言いましたが、大井先生は地域の方から本当に愛されていました。その中で得た学びは、ここではすべてを書ききれない以上、自分が医師になった時にこの学びすべてを患者さんに還元したいと思います。



花房 徹郎

Tetsuro Hanabusa
(六甲学院高校出身)

(ファミリークリニックあい)

PROFILE : 2007年徳島大学医学部医学科卒業。耳原総合病院にて初期研修修了後、大阪民医連家庭医後期研修プログラム「なごみ」(現・西淀病院総合診療専門研修プログラム)を修了。2014年12月よりファミリークリニックあいの所長に着任。

地域に根ざした 家庭医として歩んで

みなさんはじめまして。私は、普段、大阪市淀川区にあるファミリークリニックあいという診療所で家庭医療専門医として働いています。私が、どのようにして診療所で働くことになったのか、また、実際診療所でどのようなことをしているのかということについて少し紹介させて頂きたいと思います。

● 医師を目指したきっかけ

私が医師になりたいと思ったきっかけは、高校生の頃に観た青年海外協力隊で活躍する医師について紹介されたテレビ番組でした。当初は、自分自身もテレビで観たような海外で活躍する医師を夢見ていましたが、医療についての勉強を深めるにつれ、日本にも医療過疎の地域があるということを知り、地域医療に



関わりたいという想いを強くしました。

● 民医連との出会い

私と民医連との出会いは、大学受験会場で配られていたMedi-wing(だったと思います)がきっかけでした。そこには、地域医療に奮闘する民医連の病院について書かれており、「身近にこんな病院があるんだ」と、大学の入学前に、民医連の病院に1日医師体験にさっそく申し込んだのを覚えています。見学を重ね、民医連の病院で働く医師やコメディカルの方々の人柄やスピリッツに触れ、また医療過疎は、僻地だけではなく、大阪のような都会でも起こりうるということを知りました。そして、自分自身もこのような医療機関で働きたいと思うようになりました。

● 家庭医療との出会い

無事に医師国家試験に合格し、民医連の病院に就職した後、初期研修では内科をはじめとして、外科、小児科、産婦人科、精神科などの様々な科を研修させて頂きました。



からはじまり、一緒に来られたお父さん、お母さんの風邪の診療や健康の相談、100歳に近い方の訪問診療から自宅でのお看取りまで、老若男女を問わず、様々な方の診療にあたっています。また、健診や予防接種の推奨など予防活動にも力を入れています。以前は、健康講座などを診療所などで行っていましたが、最近ではコロナの影響で、地域の方々が診療所に集まることができなくなったため、地域へ発信する取り組みとして、YouTubeを利用した動画配信なども行っています。「FCあいチャンネル」を是非皆さんご覧ください。

● 教育診療所としての役割も

診療所は個人のもので、法人のもの

でもなく、地域のもので、これからの50年100年と地域の中でなくてはならないものとしてあり続けてほしいと思っています。そのためにも、継続的に質を保って医療活動ができる素地を作っておく必要があります。後継者作りは必須の課題だと思っています。家庭医療専門医は、専門医の中ではまだまだ数も少なく、マイナーな部類ですが、今の医療情勢において、地域の中で果たす役割は大きいと感じています。ファミリークリニックあいでは、地域で活躍できる医療者を輩出していきたいと考えており、教育診療所の位置づけとして、研修医や専攻医の受け入れを積極的にを行っています。医学生、高校生のみなさんも、見学大歓迎です。ので、実地の診療所の現場を是非見に行ってください。



どの診療科も魅力的で、自分は将来専門をどうしようかと悩みましたが、そんな時に、「家庭医療」という診療科に出会いました。「家庭医療」とは、プライマリ・ケアを専門に行う医療のことです。プライマリ・ケアとは、簡単にいうと「身近にあつて、性別や年齢、臓器にとらわれず、あらゆる健康問題に対応し、相談に乗ってくれる総合的な医療」のことです。地域の現場で地域医療を学びたいと考えていた私にとっては、とても親和性が高い分野だと思いましたので、「家庭医療」を専攻することに決めました。

● ファミリークリニックあいの診療

家庭医療の専門研修を終え、無事に家庭医療専門医を取得したちょうどその頃に、働いている病院の法人から新しい診療所が開設されることになり、私が所長として赴任することになりました。その診療所が、現在私が働く診療所「ファミリークリニックあい」です。「ファミリークリニックあい」は、2014年12月に大阪市淀川区に家庭医クリニックとして開業しました。実際の診療現場では、0歳の初めての予防接種

なごみの医療道場「こなコト聞きたい」大募集!

なごみの医療道場では、テーマを変えて医師を目指す方たちへメッセージを掲載しています。技術的なことだけでなく、「医師にとっての志」「社会の中での医師の役割」など、テーマは多数。取り上げてほしいテーマなどございましたら大阪民医連までご連絡ください。

大阪民主医療機関連合会 (大阪民医連)
〒541-0054 大阪市中央区南本町2-1-8 創建本町ビル2階
TEL : 06-6268-3970 FAX : 06-6268-3977
E-mail : igakusei@oskmin.com



努力の先にはきっと明るい未来が待っています
夢をあきらめないあなたへ 先輩からの応援メッセージ!!

こんにちは。島根大学一年の山下瑠介です。私は一年の浪人生活を経て念願の医学部に合格することができましたが、現役時に「こうしておけばよかったな」と思うことや、浪人時に「やっておいてよかったな」と思うことを中心に皆さんにお伝えしたいと思います。これから受験勉強を始めようとしている方の参考になれば幸いです。

まず最初に受験で最も大事な科目の一つである数学についてです。高校に上がってから数学に苦手意識をもっていた私は「数学は解法を覚えれば何とかかな」とばかり思っていました。より多くの解法を取り入れることばかり意識していても成績は伸びず、現役時の本番でも数学で思うように点を取ることができずに終わってしまいました。浪人が決まった時に数学で伸び悩む原因について考えてみると、解法を覚えるのではなく、人に説明できるようになることを意識しながら、どういう理由でこの公式を使うのか、といったことを考えて解答例を読むようにすると、普段問題を解いているときにも解法の糸口をつかみやすくなり、苦手意識もなくなってきたように思います。これは数学以外の科目でも言えることなので、人に教えるつもりで一度取り組んでみてください。

次に、人付き合いについてです。私は現役の頃、受験は個人間の戦いであり、勉強面ではあまり人とつるむべきではないと思っていましたが、息切ればかりしていたように思います。しかし、浪人生活が始まって新たにもう一年頑張る仲間と出会い、問題を教え合ったり、模試で競い合ったりすることがとても刺激になりました。皆さんも一人でもいいから互いに尊敬できる友人を見つけてみてください。

最後にモチベーションの保ち方についてです。医学部を目指すにあたっては、将来自分が医師となって活躍する姿を思い浮かべて、具体的にどの科に行きたいかとか、どんな研究がしてみたいかといったことを考えておく事は大切だと思います。私の場合は現役生の頃から民医連の病院見学や医師講演会に何度か参加させていただいたこともあり、自分にとっての理想の医師像を早いうちから思い描いたことで大きな挫折をする事なく受験を乗り越えられたような気がします。また、民医連の模擬面接会ではその医師像を面接官である実際の医師の方や職員の方にしっかりと伝えることでさらにモチベーションを高めることもできましたし、実際の面接試験でも、それほど緊張することなく自分の気持ちを大学側に伝えることができたように思います。

受験は長くてしんどい道のりに思うかもしれませんが、努力の先にはきっと明るい未来が待っています。将来、医療の現場で活躍している自分の姿を思い浮かべて頑張ってください。応援しています!

島根大学医学部推薦入学
やました りゅうすけ
山下 瑠介 (清風高校出身)



申し込み
方法

医師体験



イベント



または

大阪医学生・研修医ドットコム 検索
<http://www.oskmin-igakusei.com/>

医学部をめざす

高校生・受験生のみなさんへ
未来の医師を応援



医師体験

日曜・祝日などを除く診療を行っている日であれば、いつでも受け入れを行っています(土曜日は要相談、年末年始は診療を行っていないため受け入れ不可)。日本各地にある民医連加盟の病院や診療所で医師体験を実施しています。お近くの事業所をご紹介しますのでお気軽にご相談ください。医師体験では医師との懇談や診察見学、病院・診療所の検査機器などの見学やオペ室見学、時にはカンファレンスに参加したり、訪問診療で患者さんのお家に伺ったり、あまり見ることのない医師の働き方を知ることができます。また、介護施設などの福祉施設見学もできますので、事前に興味のあることを教えてください。
※現在は東大阪生協病院と一部の診療所で感染対策を徹底した上でおこなっております。

医学生と
しゃべり場

6月と10月に開催しています。様々な大学の医学生に受験時の悩みや勉強の仕方、予備校の選び方等ざくばらんにお話しすることができます。時には保護者の方の悩みにもこたえてもらうことも。医師の講演会もありますので医学生と一緒に学べる企画です。しゃべり場に協力してくれる医学生ボランティアも募集中!
※現在はオンラインで随時おこなっております。



医学部受験には避けて通れない、医療倫理の分野から「安楽死」や「セクシャルマイノリティ」などをテーマに学習と交流を行っています。教材から、「患者の立場ならどう思いますか?」「家族の立場なら?」「お医者さんの立場なら?」と、様々な立場での視点でディスカッションをします。自分の意見をしっかりと伝え、相手の意見も尊重し、医師と一緒に、多様な意見があることを学びます。医師や医学生との交流もしっかりできます。
※現在はオンラインでおこなっております。



医療・倫理
セミナー

医師講演会



今年は医師講演会を夏に合計4回オンラインで行いました。コロナ禍での医療現場のリアルや若手医師から医師を目指したきっかけややりがいなどを講演してもらいました。オンラインなどで気軽に参加できます。また関西以外の高校生も多数参加してくれました。今後もオンラインをフル活用して開催していきます。



推薦入試とセンター試験後の時期に開催。「面接とは?」のレクチャーの後、医師と管理職のプロの面接官を前に面接を行います。志望大学の過去の面接内容を質問項目にあげ、面接後はフィードバックを行います。交流会では参加者や医師との交流も行います。

模擬面接会

※現在はオンラインでおこなっております。

その他、合格おめでとう会 & 入学前実習や
さまざまなボランティア活動もやっています!!

西淀病院研修医 浅田宜孝

(天王寺高校出身)

YOSHITAKA ASADA

医学的なことに関しても実際の場ではわからないことばかりで右往左往してばかりだったと思います。主治医を任されるものの患者さんや看護師さんからの訴えや提案があった際にどう対応していいかわからず、指導医にその対応に関して都度質問に行く日々。

これからやっていけるか不安に思う日もありましたが、指導医の先生はいつもう優しく教えて下さり、患者さんか

はじめまして。西淀病院研修医の浅田宜孝と申します。

「あさだ よしたか」と読みます。幸い浅田を読み間違えられることはないのですが、よく下の名前を宜孝と間違えられ「のぶたか」と書かれていることがあります。

この記事が掲載される際には間違えられていることがありますように。さて前置きはここまでにしておいて、現在は耳原総合病院で小児科の研修をしています。

4月から西淀病院の総合内科で研修を始めましたが、最初は電子カルテの操作など環境に慣れることに精一杯でした。

この記事が掲載される際には間違えられていることがありますように。さて前置きはここまでにしておいて、現在は耳原総合病院で小児科の研修をしています。

4月から西淀病院の総合内科で研修を始めましたが、最初は電子カルテの操作など環境に慣れることに精一杯でした。

実際に医師となり、単に医学を学ぶだけでは十分でなく、患者の生活背景を知りそれに合わせて医療を提供する

その後は総合内科での研修に戻りましたが少しずつ成長していると感ずることができ、経験も増え対応できる幅も増えてきたと思います。

入院しているのは高齢の方が多く今まで小児を診ることは全くなかったのに、現在小児ばかりを診察しています。ごく新鮮な気持ちで研修をしています。疾患自体も小児特有のものから成人に共通するものまで、幅広く経験を積ませて頂きありがたい限りです。

「先生ありがとっ」の言葉で頑張ってもっといい医者になろうと前向きに向かってこれました。

その後の7月から救急外来の研修では病棟では、病棟ではなかなか経験することの難しかった主訴や初期対応をたくさん経験することが出来ました。

同時に、患者の症状を聞きそこからスピーディーに問診を取り検査をするという流れに慣れること、限られた時間の中で患者の不安を出来る限り取り除くことの難しさを感じました。

ことが重要だと感じています。しかし自分一人では出来ることはまだまだ少なく、特にpapers（癌の告知など）を伝える際には上級医に頼ることが多いです。

自分の力で出来るように、さらには後輩や他の人の力とされるようさらに精進を進めていきたいと思っています。

誌の貴重なスペースを下さったこと、また読者の方には貴重な時間を頂いて読んで下さりありがとうございます。お会いした際にはよろしくお願致します。

浅田宜孝 PROFILE
●2021年滋賀医科大学卒業。
西淀病院にて初期研修中。



東北医科薬科大学4年生 清水智也

(大阪星光学院出身)

TOMOYA SHIMIZU

はじめまして！ つどい事務局員を務めさせていただいている東北医科薬科大学4年の清水智也と申します。最近小説を読むことにハマっていて『十角館の殺人』、『向日葵の咲かない夏』などを読みました。面白かったのでぜひ皆さんも読んでみてください。

「実践から考えるいのちの平等」をテーマに石川民医連のMSW、伍賀道子さんの講演のあと各班に分かれてのディスカッションを行いました。コロナ禍であった2020年、ソーシャルワーカーである伍賀道子さんのもとに多くの生活困難の声が集められました。そのような経験から、なぜ民医連が無差別平等の医療にこだわり続けてきたのか、そして社会保障とはどうあるべきなのかという疑問を提示していただき、社会保障のあり方について今一度考えるきっかけとなりました。

「実践から考えるいのちの平等」をテーマに石川民医連のMSW、伍賀道子さんの講演のあと各班に分かれてのディスカッションを行いました。コロナ禍であった2020年、ソーシャルワーカーである伍賀道子さんのもとに多くの生活困難の声が集められました。そのような経験から、なぜ民医連が無差別平等の医療にこだわり続けてきたのか、そして社会保障とはどうあるべきなのかという疑問を提示していただき、社会保障のあり方について今一度考えるきっかけとなりました。

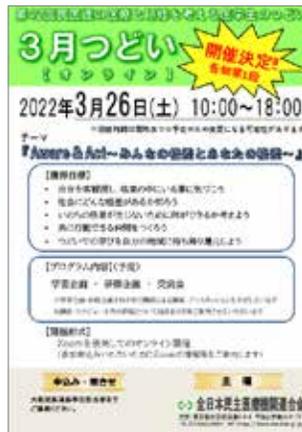
「実践から考えるいのちの平等」をテーマに石川民医連のMSW、伍賀道子さんの講演のあと各班に分かれてのディスカッションを行いました。コロナ禍であった2020年、ソーシャルワーカーである伍賀道子さんのもとに多くの生活困難の声が集められました。そのような経験から、なぜ民医連が無差別平等の医療にこだわり続けてきたのか、そして社会保障とはどうあるべきなのかという疑問を提示していただき、社会保障のあり方について今一度考えるきっかけとなりました。



今年度からつどい事務局に参加して、毎月の会議でつどいの目標などを話し合ってきました。そのなかで年間テーマ「Aware & Act」みんなの格差とあなたの格差」として社会に存在する様々な格差に対する「気づき」と「行動」を目標としています。前回のプレつどいではAwareの部分重視し、自分たちの周りに存在する格差について話し合い、格差が意外と身近にあることを実感しました。今回のつどいはActに重点を置き、実際に最前線で活動をされている講師の方に講演をしていただく予定です。この講演を通して格差を無くすためにはどういった行動をすればいいかを参加された方たちに考えてもらおうと思っています。

今年度からつどい事務局に参加して、毎月の会議でつどいの目標などを話し合ってきました。そのなかで年間テーマ「Aware & Act」みんなの格差とあなたの格差」として社会に存在する様々な格差に対する「気づき」と「行動」を目標としています。前回のプレつどいではAwareの部分重視し、自分たちの周りに存在する格差について話し合い、格差が意外と身近にあることを実感しました。今回のつどいはActに重点を置き、実際に最前線で活動をされている講師の方に講演をしていただく予定です。この講演を通して格差を無くすためにはどういった行動をすればいいかを参加された方たちに考えてもらおうと思っています。

今年度からつどい事務局に参加して、毎月の会議でつどいの目標などを話し合ってきました。そのなかで年間テーマ「Aware & Act」みんなの格差とあなたの格差」として社会に存在する様々な格差に対する「気づき」と「行動」を目標としています。前回のプレつどいではAwareの部分重視し、自分たちの周りに存在する格差について話し合い、格差が意外と身近にあることを実感しました。今回のつどいはActに重点を置き、実際に最前線で活動をされている講師の方に講演をしていただく予定です。この講演を通して格差を無くすためにはどういった行動をすればいいかを参加された方たちに考えてもらおうと思っています。



【申込み・お問い合わせ】
大阪民主医療機関連合会 (大阪民医連)
TEL:06-6268-3970
E-mail: igakusei@oskmin.com

※つどい：正式名称「民医連の医療と研修を考える医学生のつどい」。
1980年から始まり、現在に至る。医療を取り巻く様々な社会問題をテーマに取り上げ、全国各地から集まった医学生が学ぶ。

つどい事務局員としてぜひ3月つどいに参加していただきたいと思っています。多くの参加お待ちしております。

国試対策にも役立つ なるほど道場

国試対策も役立つ問題を3問出題します。正解者の中から抽選で**10名**様に「Quoカード1000円分」をプレゼントします。当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。クイズの正解は次号で発表します。

締め切り 2022年6月30日(木)

今回の出題

Q1 「医学の父」と呼ばれる、紀元前5世紀頃のギリシャの医師は誰？

- a ヒポクラテス b ヘロドトス c ピタゴラス

Q2 ばち指をきたす疾患はどれ？

- a 鉄欠乏性貧血 b 痛風 c 肺癌

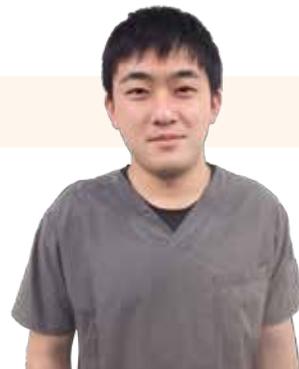
Q3 COPDの人に見られる徴候はどれ？

- a Hoover 徴候 b Homans 徴候 c Roving 徴候

出題して下さる先生

よしだ かずき
吉田 和樹

(膳所高校出身)
PROFILE ● 2021年滋賀医科大学卒業。耳原総合病院にて初期研修中。



応募方法

応募締め切り：2022年6月30日(木) E-mail送り先：igakusei@oskmin.com 「なるほど道場」プレゼント係
応募方法：①～③までの答えを明記し「お名前」「ご住所」「電話番号」「大学名・学年」「取り上げてほしい記事」を記入し、左のE-mailアドレスまで送信するか同封のはがきにご記入のうえ下記住所までお送りください。ご不明な点は下記までお問い合わせください。

● 大阪民主医療機関連合会 (大阪民医連)
〒541-0054 大阪市中央区南本町2-1-8 創建本町ビル2階 TEL: 06-6268-3970 FAX: 06-6268-3977

No.76の答え Q1. b Q2. c Q3. b

皆さんに当会の取り組みを知ってもらうために担当スタッフが様々な記事を絶賛配信中です。イベントや病院見学など、みなさんにも有益なお知らせを散りばめています。気に入った記事があったら、ぜひみなさんの「ええやん!」をお願いします。



@osaka.miniren.igakusei



@oskmin_igakusei



<http://www.oskmin-igakusei.com/>



医ゼミは正式名称を全国医学生ゼミナールといいます。全国各地にある医学部、医療系大学や専門学校の学生が毎年夏の8月に集まって、学習会や交流会を行う企画です。

和歌山医ゼミに参加する会 みかんの会



西原尚子
和歌山県立医科大学1年(天王寺高校出身)

和歌山医ゼミに参加する会 みかんの会の西原尚子です。

新型コロナウイルスが流行してからもうすぐ1年が経とうとしています。未だに多くの活動がオンラインで行うことを余儀なくされており、みかんの会も例外ではありません。しかし、オンラインにも全国の学生との交流がしやすくなるという良さがあり、現在も楽しく自由に活動しています。今回は、私たちが普段どのような活動をしているのか、紹介させていただきたいと思います。

みかんの会は、「未来の医療と自分をかんがえる」団体で、和歌山県の医療系学生を中心に構成されています。メンバーの多くはまだ低学年ですが、今年度の全国医学生ゼミナールには準備期間から参加したり、分科会を開いたり、積極的に活動しています。

毎週火曜日の21時半から始まる定例会では、各々が興味を持っていることや、参加した学習会の内容を共有し、意見を出し合うことで学びを深めています。これまでに、ソーシャルキャピタル、水俣病、生活保護、世界情勢などについて幅広く取り上げ、問題に対し自分たちにできることは何かを考えることもありました。また、このような

議論以外にも、大学生生活や勉強について学年間で交流するなど、仲を深めています。

時には現役の医師を定例会に招き、自分たちで学習会を開くこともあります。

直近では小児科医の先生から、発達障害を持つ子どもの支援についてお話を伺いました。

正直、私は今まで発達障害のことをよく知らず、深く考えたこともありませんでした。しかし、学習会でお話を聴いてから、発達障害そのものや治療に対する考え方が大きく変わり、もっと真剣に学びたいと思うようになりました。現場の生の声を聴くことができる学習会は、私たち学生に新しい視点を気づかせてくれる貴重な機会です。

今後の展開としては、コロナ禍でも勉強を頑張っている子どもたちのために、和歌山で無料

学習塾を開こうと考えています。実現に向けて、まずは他県の無料学習塾を見学させていただくことから始める予定です。また、次年度の医学生ゼミナールの開催地にも立候補しています。現地開催が可能になることも視野に入れて、さまざまな準備を進めています。

このような活動を通して、医療がより良いものになるように、自分たちはどうあるべきかを探し続けていきたいと思っています。

